



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2019年11月25日]

第113回映画大使「ひとよ」

- ・ 期日 令和元年11月14日(木曜日) ※公開1週目
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

読売文学賞戯曲などを受賞し、女優・演出家でもある劇作家・桑原裕子が、作・演出を手掛け「劇団KAKUTA」が2011年に初演した同名舞台作品を、『凶悪』の白石和彌監督が映画化した家族ドラマ。

脚本は『凶悪』などでも白石監督と組んできた高橋泉が担当する。

出演は、東京でフリーライターとして働く次男・雄二を『るろうに剣心』シリーズの佐藤健が、夫婦関係に思い悩む長男・大樹をNHKの大河ドラマ「西郷(せご)どん」の鈴木亮平が、美容師になる夢を諦めスナックで働く長女・園子を『万引き家族』の松岡茉優が、彼らの母親・こはるは『いつか読書する日』の田中裕子が演じている。その他、佐々木蔵之介、音尾琢真、筒井真理子などが脇を固める。

最愛の3人の子どもたちの幸せのためと信じ、母が事件を起こす。その事件があつてから、子どもたちはそれぞれ心に抱えた傷を隠しながら人生を歩んでいる。そこに、約束どおり15年経って母が帰ってくる。

事件をきっかけに、バラバラになった家族の15年ぶりの再会と、再生を願う葛藤と戸惑いを、迫真の演技と、巧みな演出で描き出す。



(C)2019「ひとよ」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ★ 出演された俳優が上手だなと思いましたね！
- ★ 派手さはありませんが、いい作品だったと思います！
- ★ この作品は、後に残ってくる作品かなと思いましたね！
- ★ この後どうなるのかドキドキしながら観ていました！
- ★ 佐藤健さんの役がいつもと違っていました、凄く良かったと思いますし、見直しましたね！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

この作品で描かれている問題は家族の中では、欠かせないものですよね。それぞれの家庭で、大なり小なり親子の葛藤はあるとは思いますが、話し合ってもわかり合えない事もありますし、子どもによって受け止め方も違いますし、そのような事が自分の家庭も含めまして、現実の社会にもありまして、本当に深い問題だなと思いながら観ていました。

Bさん

この作品を観ていまして、佐藤健さんが演じる次男は、母親からもらったものをずっと持っていたので、態度で表しているのとは違う気持ちなのかなと思いました。

出演された俳優が上手だなと思いましたね。佐藤健さんの目の動きなど凄いなと思いました。

皆さん、演技が上手な方が出演されているなとも思いました。

この作品は、後に残ってくる作品かなと思いましたね。

Cさん

AさんやBさんがお話をされてように私も思いました。

家族の中で一つ何か問題があると、それを何とかしようと思ってもなかなかうまくいかないものだなと感じました。

この作品は、二つの家族が交わる事により、役者がそろい、話が進んでいくような感じでしたね。

Dさん

役者の方の演技が素晴らしかったですね。

物語がどのように進んでいくのかなと思いながら観ていましたが、やはりCさんが言われたように二つの家族が交わらないと進んでいけない話なのだろうなと思いました。

NHKの「朝ドラ」の経験者が多くて出演していましたが、その方たちの演技が上手でしたので、「朝ドラ」は凄いなとも思いましたね。

Eさん

話しの内容が切実な話が多いため、どうしても暗めになってしまうところを、タクシー会社の社員などのキャラクターや人柄を明るくして全体のバランスをとっているなと思いました。

派手さはありませんが、役者の方も素晴らしかったですし、いい作品だったと思います。

この作品は茨城県の大洗を舞台にしていますが、私は2年前までそこの近くに住んでいました。何となく日の出町に似ているところがあるなと思いましたね。

30歳代から40歳代の親子に観てほしく、また観たらどうかと思う作品でした。

Fさん

この作品の予告編をテレビで観まして、出演している俳優がみんな好きな方でしたので、観てみたいなと思っていました。

最初から緊迫感のあるシーンで、この後どうなるのかドキドキしながら観ていましたね。

この作品を観ていて、話の展開からすると、大人になった子どもたちはもっとひどい状態になっていたと思うのですが、そうでもないように思えました。そうなったのは、子どもたち3人の中に女の子がいたからなのかなと思いましたね。お母さんが帰ってきてからは、家族それぞれに葛藤があり、それを他の家族と出会う事で自分の親の事をわかっていくように思えました。

佐々木蔵之介さんは、いい役者ですが、今までのイメージとは違った役をされていましたね。他の方もいつもとは違う役をされていた方が多かったですね。

Gさん

この作品のタイトルは『ひとよ』でしたが、「人よ」なのかと思っていましたら、一晩の「一夜」でした。開けない夜はないという意味なのかなと思いましたね。

佐藤健さんの役がいつもと違っていました、凄く良かったと思いました。「俳優はいろいろな人生を生きる」と言った人がいましたが、本当にそうだなと思いました。また違った面で魅力的な部分が出てきたなと思い、見直しましたね。

この作品の結末ようになったのは、周りの人のお陰かなと思いましたし、長女の園子が接着材の役割をしたのかなとも思いました。

Hさん

私は田中裕子さんのファンです。

考えさせられた作品でした。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・凄く丁寧に作られていますね！
- ・タクシー会社の社長になった方がいい人で、いろいろとつくされて、社員たちもまとめていましたね！
- ・家族のあり方を描いていましたね！
- ・実行力と行動力があるのが、次男だなと思いましたね！
- ・出演者がみな、目で演技をしていましたね！

まとめ

この作品は、劇作家の桑原裕子が原作を作り舞台上で公演されており、同名の小説にもなっています。

大使の方からも多く意見として出されましたが、出演者の演技のうまさも際立っています。ほとんどのキャストが、今まで演じてきた役とは違っているにも関わらず、しっかりと存在感がある演技をしていました。

さらに、本作では複数の家族の物語が描かれており、更に過去と現在も描いている、そのような複雑な設定にも関わらず、わかなくならないよう、うまく表現されています。また、緊迫感のあるシーンの作り方のうまさや、回想シーンへの導入方法も工夫されており、物語に入り込めるような作りになっているなど、演出のうまさを感じます。冒頭と最後に監督名を2度いれており、白石監督のこの作品への思い入れと自信が表れています。

大使の方との話し合いも、観て感じた事がさまざまで、それぞれの方の感想を聞かせていただいた時よりも、そのあとのフリートークの方が、多くの意見が出されました。そのような事から、人それぞれ違った思いを感じたにせよ、心に残る作品であったようです。

家族のあり方を描いている作品ですが、観る人の経験や歩んできた人生により感じ方に大きく差が出る作品でもあり、観る年齢や経験により感じ方が大きく変わる作品であると思います。

映画は是非、劇場の大スクリーンをご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をすることが出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.